

歩掛参考見積募集要領

次のとおり歩掛参考見積を募集します。

令和 7 年 3 月 17 日

独立行政法人水資源機構

木曽川水系連絡導水路建設所長 加藤 正典

1. 目的

この歩掛参考見積の募集は、木曽川水系連絡導水路事業で予定している業務の積算の参考とするための作業歩掛を募集するものです。

2. 参考見積書提出の資格

- (1) 水資源機構における令和 5・6 年度一般競争（指名競争）参加資格業者のうち、測量・建設コンサルタント等の業種区分の「土木関係建設コンサルタント業務」の認定を受けていることとします。
- (2) 営業に関し法律上必要とされる資格を有していることとします。
- (3) 当機構から「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」（平成 6 年 5 月 31 日付け 6 経契第 443 号）に基づき、木曽川水系及び豊川水系関連区域において指名停止を受けていないこととします。

3. 参考見積書の提出等

参考見積書は、次に従い提出してください。

- (1) 参考見積書は、作業項目毎に必要な技術者、資機材の人数等を記載して提出して下さい。
また、参考見積書の様式は問いません。別紙「地下水解析等業務（仮称）歩掛見積調査表」に示す単位で作成してください。
- (2) 提出期間：令和 7 年 3 月 17 日（月）から令和 7 年 3 月 31 日（月）まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前 9 時 00 分から午後 4 時 00 分まで
- (3) 提出先
独立行政法人水資源機構木曽川水系連絡導水路建設所 所長 加藤 正典 宛
【担当】総務用地課 横溝、江川
〒501-0614 岐阜県揖斐郡揖斐川町長良 319-1
TEL (0585)22-5216 FAX (0585)22-5217
メールアドレス nyukei_kisodo@water.go.jp
- (4) 提出方法
書面は持参、郵送又はファクシミリ（社印があること）により提出するものとします。

4. 参考見積内容

- (1) 業務基本条件
別添の見積仕様書による。
- (2) 業務作業項目、作業内容
別添の見積仕様書による。

(3) 業務費の構成と歩掛見積徴取範囲

- ① 本歩掛参考見積を適用する業務費の構成は、当機構が別に制定する「積算基準及び積算資料（調査編）」（以下「基準書」という。）によるものとします。
- ② 歩掛参考見積徴取範囲は基準書で定義されている直接人件費等のうち、上記(2)「業務作業項目及び作業内容」を実施するために必要な技術者、資機材の人数等を募集します。

(4) 技術者の職種と定義

国土交通省が公表している「令和7年度設計業務委託等技術者単価」における「技術者の職種区分定義」によるものとします。

(5) 見積書有効期限

令和8年3月31日までとする。

5. 募集要領に対する質問

この募集要領に対する質問がある場合においては、次に従い、書面（様式は自由）により提出してください。

- (1) 提出期間：令和7年3月17日（月）から令和7年3月21日（金）まで

持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前9時00分から午後4時00分まで

- (2) 提出場所：3. (3) に同じ

- (3) 提出方法：3. (4) に同じ

6. 質問に対する回答

質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。

- (1) 閲覧期間：令和7年3月26日（水）から令和7年3月31日（月）まで

- (2) 閲覧方法：ホームページに掲載します。

7. 参考見積書作成及び提出に要する費用

参考見積提出者の負担とします。

8. ヒアリング

提出して頂いた参考見積書についてヒアリングを実施することがあります。

9. その他

この参考見積書をご提出いただいたことで、業務の指名又は競争参加資格をお約束するものではありません。

ご提出いただいた参考見積書は、業務積算の目的以外には使用いたしません。

別添 見積仕様書

I. 業務目的及び概要

本業務は、木曽川水系連絡導水路事業における、環境レポート更新のための環境影響検討の一環として、「地下水の水位」、「地下水の水位の低下による地盤沈下」について、予測検討を行うものである。

参考文献

1. 木曽川水系連絡導水路事業環境レポート（案）平成 21 年 7 月（以下「環境レポート（案）」という。）
2. 放水路事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令（以下「放水路省令」という。）

貸与資料

1. 木曽川水系連絡導水路地下水検討業務報告書（平成 21 年 3 月）
2. 木曽川水系連絡導水路地質総合解析業務報告書（平成 20 年 7 月）
3. 木曽川水系連絡導水路地質総合解析補足業務報告書（平成 21 年 10 月）
4. 導水路検討区域における地質調査業務報告書（平成 17～19 年度）
5. 地下水等調査業務報告書（平成 21 年度から令和 6 年度までの導水路検討周辺区域における地下水の水位及び沢水流量観測結果）

II. 見積り内容

1. 計画準備

業務内容を十分理解し、円滑な業務の遂行ができるよう、業務計画書を作成し、調査職員に提出するものとする。

2. 地下水の水位低下の検討

参考図－1 に示す導水路（上流施設）検討区域周辺の地下水の水位の低下について、環境レポート（案）に示す既往の検討内容を踏まえて、環境影響予測を行う。

2－1 想定地下水位等高線図の更新

想定地下水位等高線図の更新にあたり、16 年間の地下水の水位計測結果（16 地点）について、降雨による影響を除いた、近年の安定的な地下水の水位を推定する。

既往 6 断面の地下水位の等高線図（参考図－2：平成 20 年当時に推定した安定的な地下水の水位に基づき作成）について、直近の観測データを踏まえて安定的な水位を整理のうえ、更新を行う。

2－2 予測検討

1) モデルの検討

環境レポート（案）に示すモデル（断面二次元浸透流検討）を踏まえて、新しい地質情報（貸与資料の成果）に更新したモデルの検討を行う。

① 既往断面の検討

参考図－3 に示す、導水路（上流施設）検討区域周辺で、既往の地質断面図 7 断面についてモデルの検討を行う。

② 新規断面の検討

地下水の低下による影響が懸念される池等の水源がある 1 断面について、断面に近接するボーリングデータや地質解析結果から、地質断面図を新規に作成しモデルの検討を行う。

2) モデルの構築

地下水の水位の変化を予測するための断面 2 次元モデル（参考図－4 参照）を構築するものとする。解析する断面数は 8 断面とし、妥当なモデルが得られるまで、現況再現の確認と調整を行うものとする。

特に、地下水の水位、沢水流量の比流量についての再現性は、十分考慮するものとする。

3) 予測検討

①影響範囲の検討

地下水の影響範囲について、既往の調査結果、断面 2 次元モデルによる解析を踏まえて、検討するものとする。また、高橋の方法による影響範囲との比較、検証を行う。

②地下水の水位の検討

調査職員が別途指示する導水トンネルの施工条件及び構造条件を踏まえた設定により、施工時の地下水の水位、比流量の変化について検討するものとする。また、導水路トンネル供用後の地下水の水位等の復元状況（時間軸を含む）についても検討を行うものとする。

（参考図－4 参照）

3. 地盤沈下の検討

地下水の水位の低下による地盤沈下の予測を行うものとする。

1) 文献調査

導水路（上流施設）検討区域周辺における地下水の水位の状況、地質の状況、地下水の水位の低下による地盤沈下の状況について、公表資料や、貸与資料（既往の調査・検討業務報告書）を用いて整理する。

また、対象となる周辺地域（濃尾平野）における地盤沈下の状況や他についても公表資料による文献調査を行い整理する。

2) 予測検討

①影響予測検討

放水路省令、2. 地下水の水位の低下の検討、3. 1) 文献調査の検討結果を踏まえて、導水路（上流施設）検討区域周辺において、地盤の圧密に関する検討により地盤沈下の程度を検討し、事業による影響について予測検討を行う。予測対象時期は、工事中及びトンネルの供用時とする。

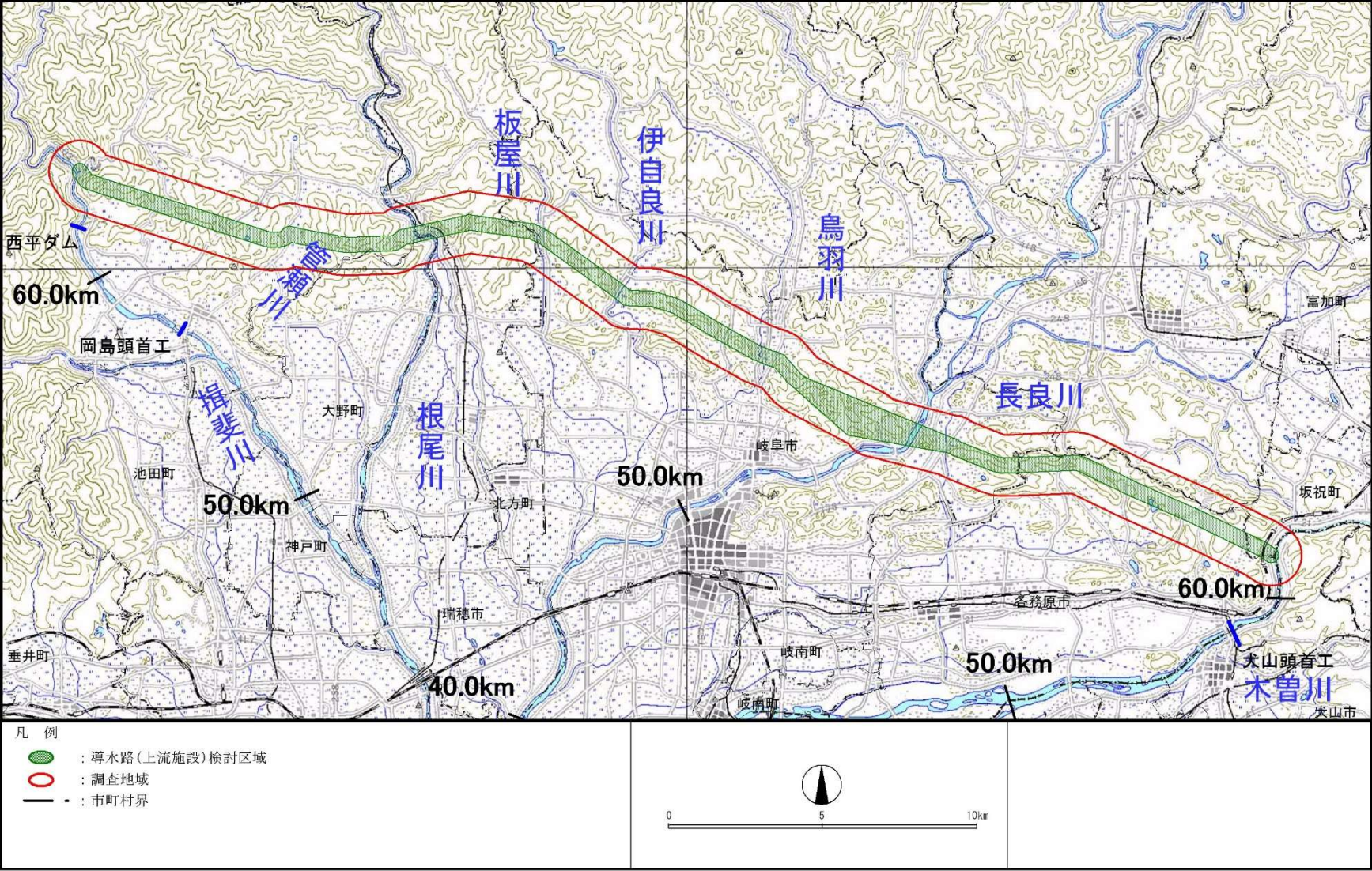
②地盤沈下量の検討

導水路（上流施設）検討区域周辺の工事中及びトンネルの供用時における平面的な地盤の沈下量について、これまでの検討結果から可能な範囲で推定し、地盤沈下量の分布図を作成する。

4. 報告書作成

本業務で実施した内容を取りまとめた報告書の作成を行うものとする。

参考図－1 導水路（上流施設）検討区域等



参考図－2 想定地下水位分布図（1／5）

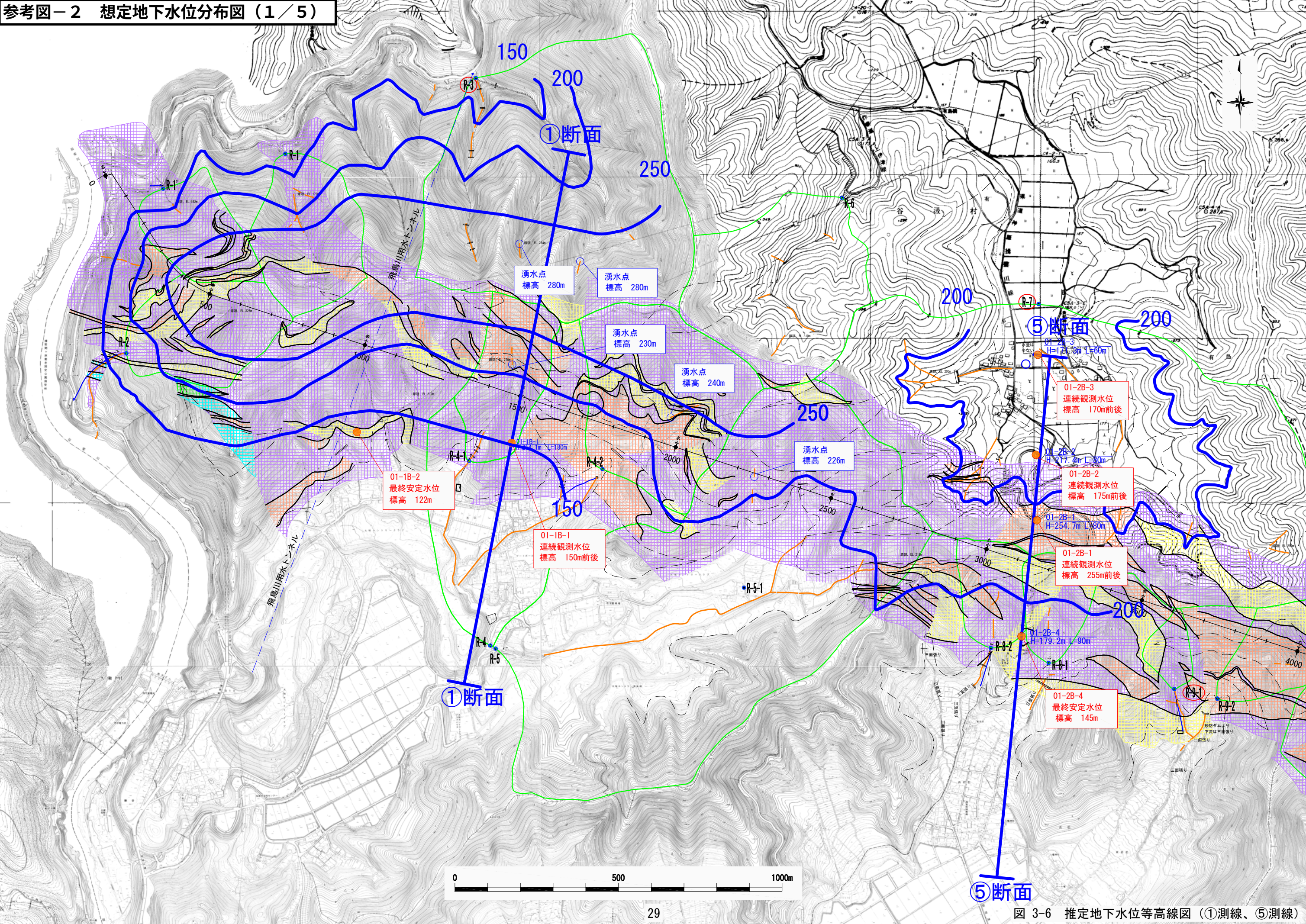


図 3-6 推定地下水位等高線図（①測線、⑤測線）

参考図－2 想定地下水位分布図（2／5）

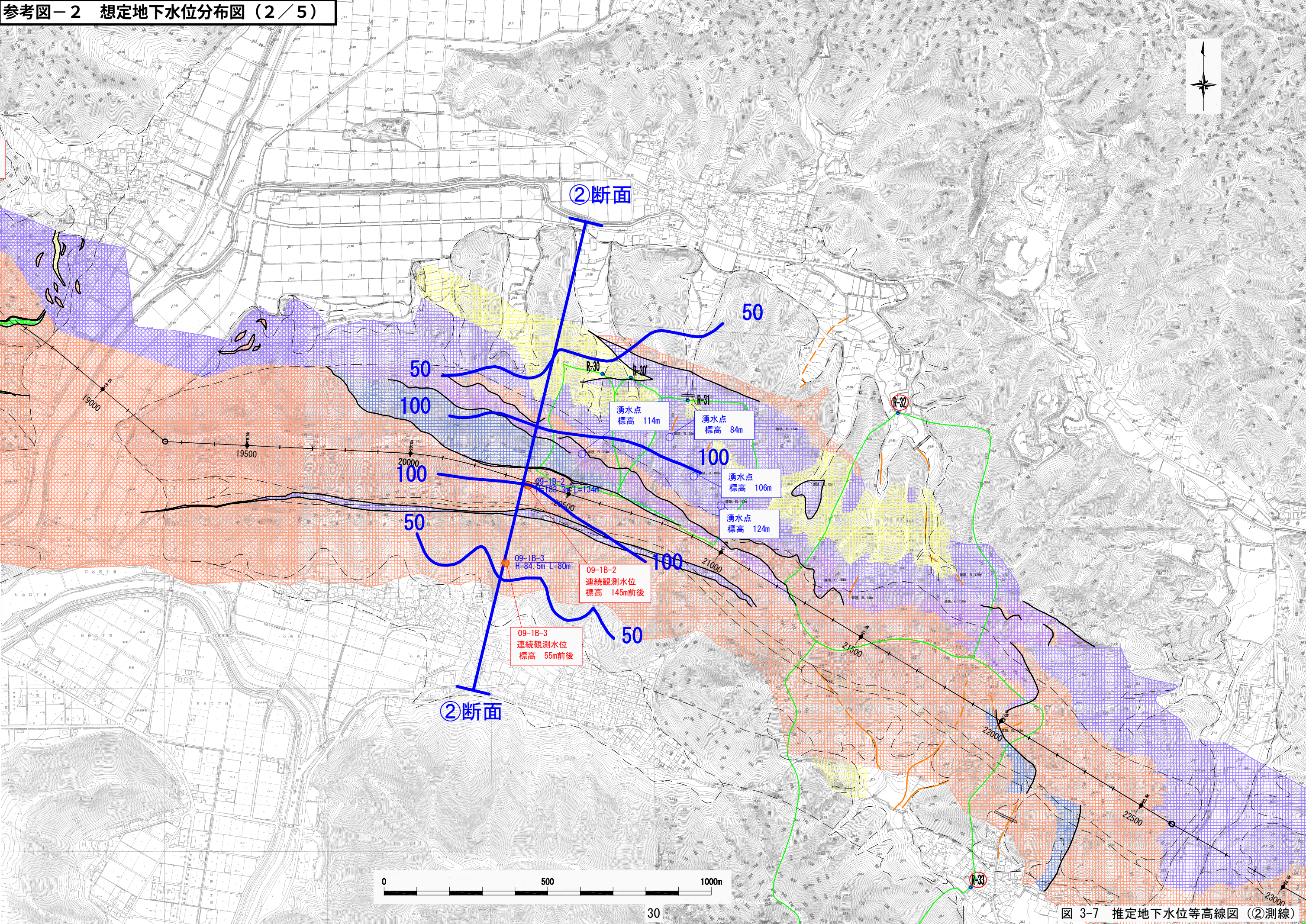
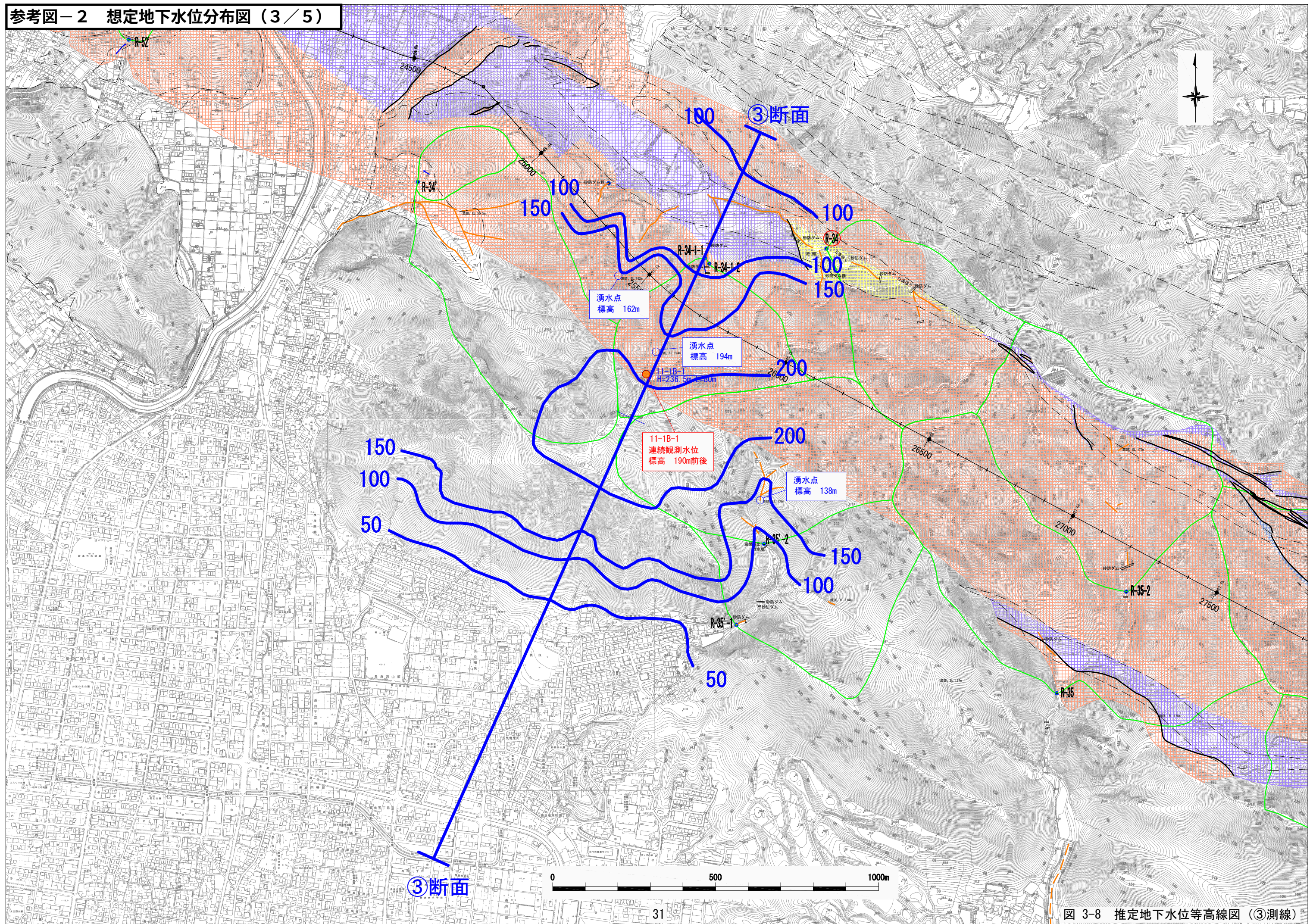


図 3-7 推定地下水位等高線図（②測線）



参考図－2 想定地下水位分布図（4／5）

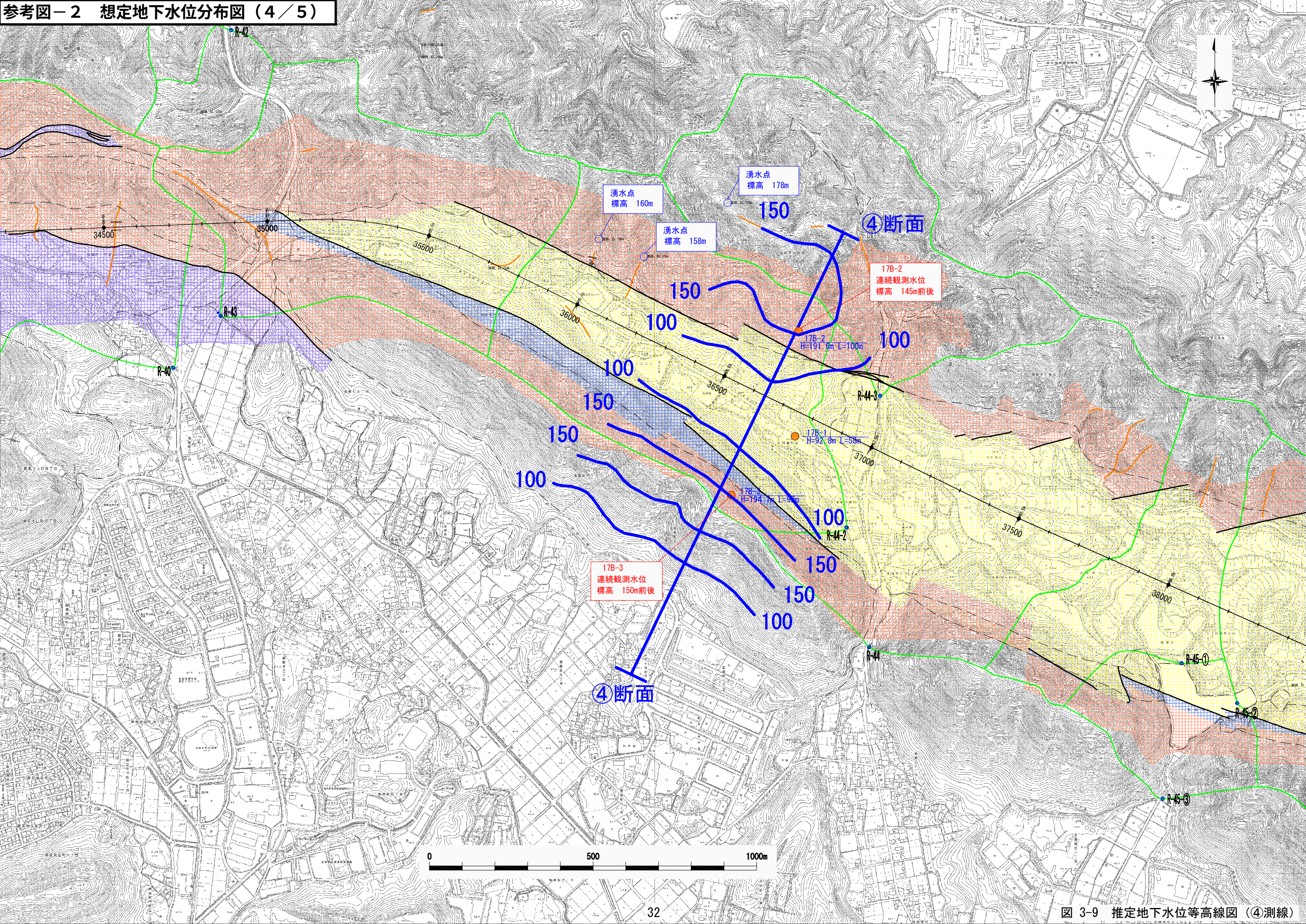


図 3-9 推定地下水位等高線図（④測線）

参考図－2 想定地下水位分布図（5／5）

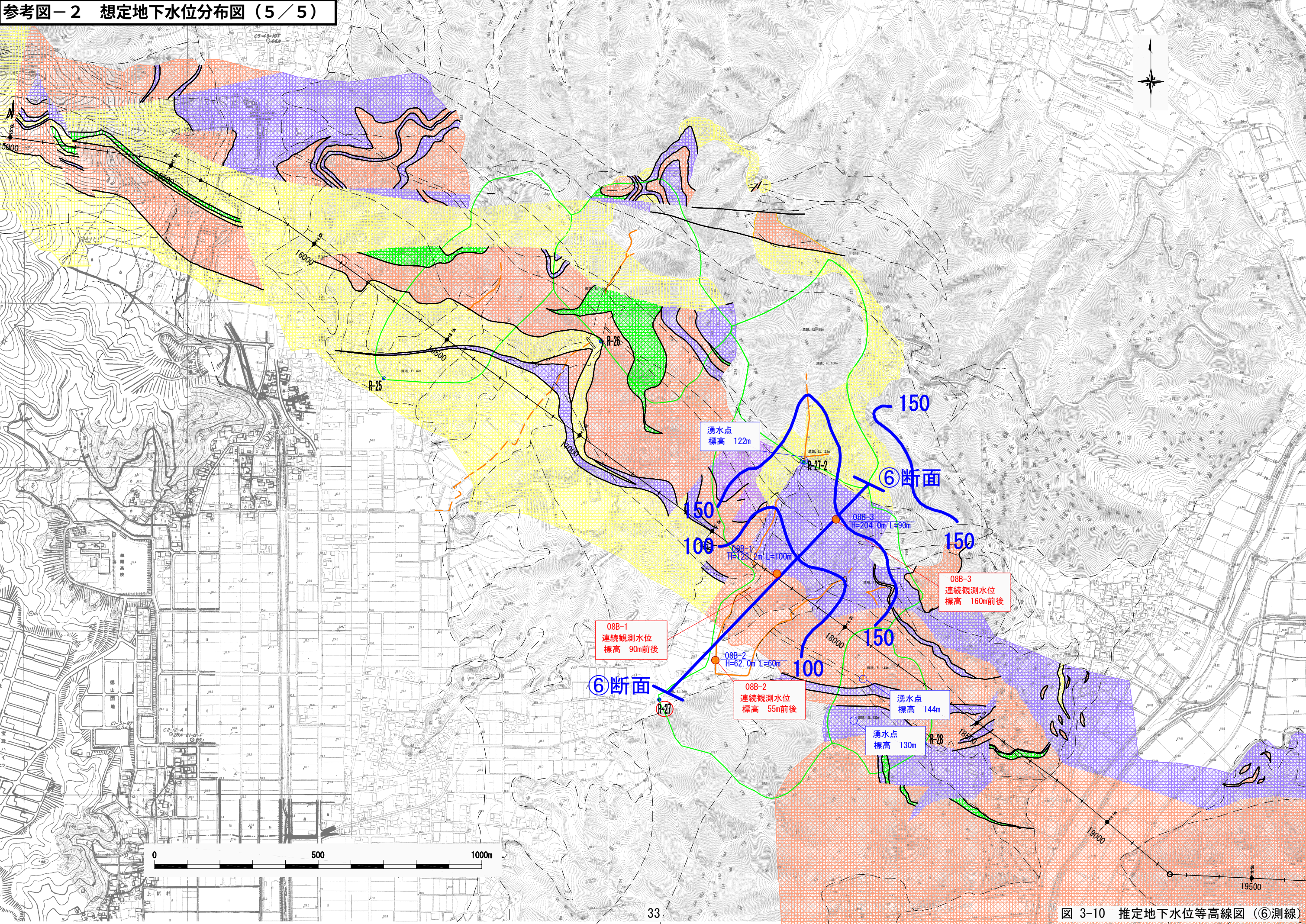
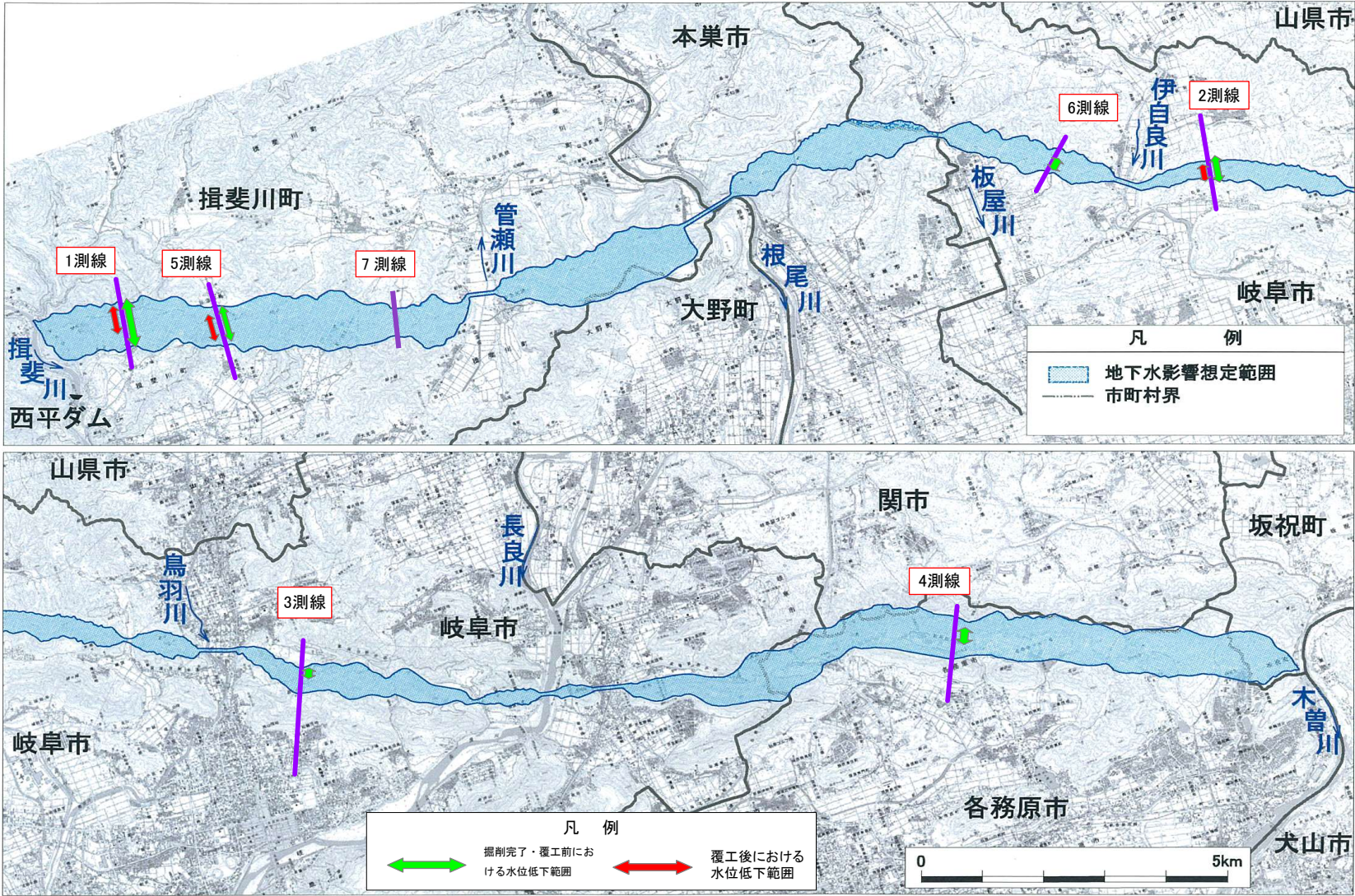


図 3-10 推定地下水位等高線図（⑥測線）

参考図－3 既往検討による地下水影響想定範囲及び検討断面位置



参考図－４ 断面２次元モデルによる地下水影響の既往検討例（１／２）

